

Active

我孫子市立湖北小学校

研推日より

2025.5.28 No.2

発行者 菅家

先生方、運動会お疲れ様でした!!学級・学年、全校で行事を成功させるという経験を積んで、子どもたちも成長したと思います。6月は、第1回の校内研究会があります。2,3年生の先生方、準備等よろしくお願ひします。今回は、お茶飲み場の机に置いてあった雑誌をたまたま読んでいたら見つけた「算数授業」の資料を紹介します。「自ら課題を見つけるための手立て」が紹介されていました。本校の研究テーマに繋がるのではないかと思います!!ぜひ、参考にいただけたら嬉しいです。

今回のテーマ:「算数の授業について」

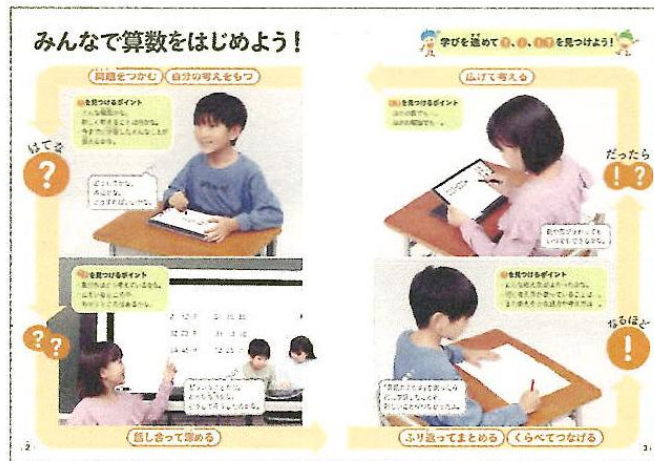
最初の一步! はてなるマークを黒板に貼ろう!

次の問題を見つけたら、
! ? マークを貼る!

問題場面を確認したら、
? マークを貼る!

今日新しく考えることは
何かな?

今日のはてなは
何かな?



別の数では?

別の形では?

別の場面では?

問題を解決したら、
! マークを貼る!

どうしたら
はてなを解決できたかな?

算数の
場面から

? を引き出したい! 指導のポイント → 新しく考えることを問う

3 28円の カステラと 17円の
グミを 1つずつ 買います。
あわせて 何円になるでしょうか。

困ったこと、前回までの違い、解決できる範囲を明らかにし、
今日新しく考えることを問う。

何に困ったの?

8 + 7 = 15に
なっちゃうから、15を
どうやって書けばいいか
わからない。

28 位ごとに計算すると...
+17 8 + 7 = 15
あれ?

前回までと何が
違うの?

前回までは
一の位どうしをたしても
十何にならなかった。

$$\begin{array}{r} 24 \\ + 15 \\ \hline 39 \end{array}$$

どこまでならできるの?

$$\textcircled{1} \begin{array}{r} 32 \\ + 27 \\ \hline 59 \end{array}$$

$$\textcircled{2} \begin{array}{r} 43 \\ + 50 \\ \hline 93 \end{array}$$

一の位が
9までなら
できる!

はてな ? 一の位の計算が10より大きくなるときは、
どうすればいいのかな。

実際にやってみると何が新しいか発見できる!



を引き出したい! 指導のポイント → 問題を自分事として捉えさせる



子どもに気づかせたい
ふきだしは隠す!
出なかったときに提示し、
発言の意図を問う。

場面絵を使って
登場人物が困っていることを捉えさせ、
どうしたら解決できるか話し合い、
問いを焦点化していく。

全部しばったらいい。

全部しばらないとジュースの量の
見当をつけられないかな?

1つしばって取れた量に
オレンジの数をかければ……。

オレンジによって
しばれる量が
違うけど……。

いくつかしばってみて
1つからしばれる量の
見当をつけられ……。



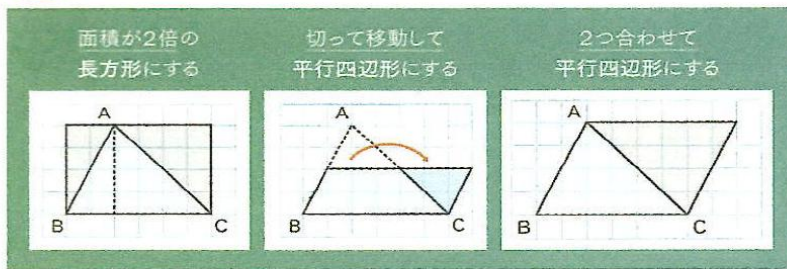
やっぱりしばれる量が
ばらばらだね。

1個からしばれる量は
何mLといえいいのかな。

はてな
? オレンジによって量にちがいがあっても、
1個からとれるジュースの量は
どのように見当をつけたいのかな。



を引き出したい! 指導のポイント → 見方・考え方の共通点を考えさせる



子どもが考えを説明した際に、
働かせた見方・考え方を
板書に整理しておき、共通することを問う。

どの考えにも
共通することは何かな?

なるほど
! 三角形の面積も、面積の求め方が
わかる形に変えれば求められるね。



を引き出したい! 指導のポイント → 次に考えたいことを問う

はてな
! 三角形の面積も、面積の求め方が
わかる形に変えれば求められるね。

つばさ

次に考えられそうな
ことは何かな?

だったら ①数や形を変えて振り返らせる。

ほかの三角形でもできるかな。

合同な三角形を2つ合わせて……

3cm
8cm
 $8 \times 3 \div 2 = 12$ 12cm²

だったら ②次時につなげる。

三角形も面積の公式をつくれるかな。

平行四辺形のときは、
底辺と高さがわかれば
面積を計算で求める
ことができたから……。

子どもによって
段階は違っていい!

STEP 1

みんなで考える

STEP 2

友だちと相談して考える

STEP 3

自分で考える

子ども一人一人が自分で「はてな」を見つけ、協働的に解決した過程を振り返り「なるほど」をまとめ、次に考えたいことを見つけ「だったら」と追究していく姿を目ざしますが、いきなり全てを任せるのは難しいです。上記のように、一人一人の

子どもの実態にあわせて少しずつ任せていくようにし、自分たちで学びをつくるという経験を積み重ねることを大切にできるとよいと思います。

算数の学習を通して育てたい力は、「自ら課題を見つけ、友達と協働しながらよりよく解決し、解決したことから次の問いを見つけていく」という力です。この資料にある「はてな」を見つける力を身に付けさせることから始めるべきかな・・・と私は思いました。6年生は今、「分数のかけ算・わり算」の学習をしています。分数÷整数の計算の際、「分子がわりきれないときはどうするの?」と一人の男子児童がつぶやき、次の展開に繋がっていきました。こういった疑問をたくさんの児童がもてるよう、学習内容を自分事として捉えられるよう工夫できたらと思います。